新政研究会

亡父宇田国栄が、戦後設立し終身理事長であった政策研究・提案の組織体で、戦後第一回の総選挙に当選した宇田国栄の戦後の政治活動の源である。特に(1)1953 年 12 月 14 日戦前戦後 124 名のリーダーの賛同を得て主催した保守合同推進大会により成立した「55 年体制」、(2)1960 年安保改正への議員総裁補佐役としての貢献、(3)1984 年日本の総理への提言により実現し 1986 年レーガン・ゴルバチョフ会談で成立したＩＮＦ条約（米ソ中距離核爆弾廃止条約）の結果の冷戦の終結は、戦後の日本や世界の政治に活路を導いた。

その成果を端的に顕すものとして、他界の時の葬儀委員長であった福田赳夫元総理の弔辞、米ソ和解へ米国を同意させた中曽根元総理の鹿児島の生んだ大政治家ではじまる弔辞を以下に示す。

宇田國榮先生を偲んで

（昭和六十三年八月）

国造りに偉大なる貢献

元内閣総理大臣　福　田　赳　夫

宇田國榮さん、福田赳夫です。葬儀委員長としてお別れのご挨拶を申し上げます。

去る四日、私は旅先で貴方の訃報に接しました。一月程前に貴方と電話で話をしていた時、日頃の威勢の良い声とは違い、弱々しい元気のない話し振りに、いささかお案じ申し上げておりました。

ところが、ついにこのようなことになってしまい残念で残念でたまりません。

宇田さん、貴方は明治三十六年、鹿児島県日置郡に生まれ、同地の東市来高等小学校を卒業されました。その後、志を立てて上京され、昭和八年には、新聞同盟通信社社長に就任し、戦前、戦中の言論界で正々堂々の陣を張って活躍されました。

しかし、戦いは廃墟と化した四つの島を残して敗戦に終りました。あなたはその廃墟の中に立ち上って祖国の再建を志されたのであります。

かくて、昭和二十一年の総選挙に立候補して見事に当選し、政界入りを果たされました。爾来、五期十三年、衆議院議員として祖国再建のため活躍されたのであります。その間、あなたは農林政務次官、行政管理政務次官、衆議院逓信委員長、懲罰委員長などの要職を歴任され、更に特筆すべきことは、自由民主党総裁秘書役として、よく岸総裁を輔け、かの安保騒動の乗り切りに大きな貢献をなされたことであり、又、佐藤内閣当時は沖縄返還に特に情熱を示され、しばしば現地に赴かれるなど努力、奔走なされました。

議員引退後も、貴方の志は天下、国家を離れ去ることは片時もなかったと思います。雑誌「新政研究」は引き続いて発行され、又、これを基盤に華々しい言論活動を展開されておりました。更に貴方は推されて自由民主党同志会会長となり、同志会を統括し、党内外から慈父のように慕われて今日に至りました。

貴方は昭和四十八年、数々のご功績により勲二等旭日章を受けられましたが、誠にむべなるかなと存じます。

宇田さん、私は貴方との交友は三十年余りになります。岸信介先生の同じ門下生として保守合同、岸内閣の成立、日米安保条約の改定等、岸先生の成し遂げられた大事業を貴方と私など共に手を携え、励まし合いながらお手伝いをしてまいりました。

一緒に仕事をしておりまして、貴方の行動力、実行力、特にもめごとのまとめ役としての調整力には深く敬意を払っておりました。

宇田さん、貴方は正直に申しまして選挙上手ではありませんでした。しかし、貴方は議員であろうが、なかろうが常に国を憂い、党を愛し、これぞ正しいと信じたら百万人といえども、われ往かんの気概の持主でした。

私共同志に対しましては、よきご意見番として得意の弁舌を振われ、時には苦言を呈され、時には励ましの言葉をいただいたものです。その宇田節も、もはや聞くことができなくなってしまいました。淋しさ一入です。

今わが国は世界第二の経済大国となりました。敗戦直後、想像もし得なかったことです。貴方はこの国造りに大きな貢献をされたわけです。これからも祖国がその道を誤らぬよう天の彼方から厳しく見守って下さい。

宇田さん、貴方が愛され又頼りとされていた奥様はご健在ですし、ご令息信一郎君と御一門は、それぞれ社会のため立派に活躍されています。

皆様が固く結んで、貴方の志を継ぐであろうことを信じて疑いません。

宇田さん、どうか、安らかにお眠り下さい。

鹿児島が生んだ大政治家

元内閣総理大臣　中曽根　康弘

元衆議院議員、自民党同志会会長・宇田國榮先生が、さる八月四日、他界されたことは国家、国民のため、誠に残念であり、衷心より哀悼の意を表する次第であります。

先生と私は、ともに戦後初の二十一年の選挙で初当選した間柄であり、四十二年余の交友がありました。先生は、私よりも十六歳も年長であり、しかも若くして鹿児島県出身の大政治家・床次竹二郎先生の門に入り、以来、一貫して政界、言論界で活躍されてきました。それだけに、政界、言論界の実情に通暁されていました。

私が首相在任中も、月に一～二回官邸においでいただいて、色々な昔の話や政治家としての心構えをお聞きしました。とくに、床次竹二郎先生をはじめ昔の政友会、憲政会、民政党時代の政治家、或いは原敬そのほか浜口雄幸先輩等の総理大臣をやった方々の業績等々のお話、或いは歴代政変の度毎の色々なエピソードや大事な我々が心掛けなければな

らない政治家の在り方等についていつもお話を承っておりました。

そういう意味に於いては、私は勉強させていただいたし、中曽根内閣が五年間、仕事を続けさせていただいたのも宇田先生のお教えによるところがきわめて多いのでありまして、ここに謹んで御礼を申し上げる次第であります。

また、宇田先生には特筆大書すべき功績があります。それは岸信介先生の片腕となって、保守合同を実現したばかりでなく、安保条約改定の難事業を完遂されたことであります。

保守合同の実現により、政局は今日みるような安定局面となりましたし、また、安保改定により、日米友好関係を不動のものとしたことは皆様、ご承知の通りであります。

資源に乏しく、領土狭少のわが国が、経済大国となり得ましたのも、政局の安定と日米友好関係の確立にあったことは申すまでもありません。先生は、この難事業達成のため、岸先生の手足となり、献身的な努力をされたのであります。爾来、両先生のこまやかな師弟愛は終生絶えることなく、実に敬服の極みでありました。

さらに、私が感服いたしましたことは、昭和五十九年四月二十一日、首相公邸でお会いした際、先生は私に「世界平和のため、一日も早く米ソ首脳会談を実現するようレーガン大統領に要請すべきだ」と強く主張されたことであります。

そのころレーガン米大統領は、ソ連を〝悪魔の帝国〟視していただけに、その提言は、破天荒とさえ思われました。

しかしながら、当時は実現困難と思われていた歴史的な米ソ首脳会談も、先生が私に提言されてから一年七カ月後の昭和六十一年十一月十九、二十日の両日、ジュネーブにおいて全人類が注目するなかで行われたのであります。

この第一回レーガン・ゴルバチョフ会談を皮切りに両首脳は、その後も会談を続け、ついに、昭和六十二年十二月八日、ゴルバチョフ・ソ連書記長の訪米となり、中距離核戦力（ＩＮＦ）廃止条約の締結となったのであります。以上の諸点からいたしましても、私は、宇田先生は鹿児島県が生んだ西郷南洲以来の大政治家であったと思っております。清濁併せ呑む雅量、明治生まれの気骨、国を思い、民族を愛する国士の情熱は誠に敬服すべきものがありました。

さらに、晩年には、衆望もだし難く、六十二年一月、自民党同志会会長となられ、党勢伸張のため献身的な努力をされました。

「政治に生き、政治に死す」をモットーとされていた先生は、文字通り、国家・民族のため、悔いなき人生を過ごされたと申せましょう。同時にわれわれにとりましては、よき

教訓といえます。

ここに先生のご遺徳を偲び、ご冥福を祈念してやまない次第であります。